

当協会友田副会長が広島県尾道市内で実施された海事教育に係る授業を参観
～私たちの当たり前は多くの海族(海に関わる家族)に支えられている～

3月10日(金)、当協会友田副会長は、広島県尾道市立日比崎小学校にて実施された、海賊対処行動や日々の暮らしを支える海運を取り上げた社会科授業(小学5年生)へ参観するとともに、授業後は同校教員が参加する協議会に出席、授業へのレビューや海事教育について意見交換を行いましたので、その模様をお知らせします。

授業実践者の同校村上忠君教諭とともに教材の共同開発者である広島大学大学院木村博一教授[※]も参加、両氏には、海運の役割や重要性を伝える海事教育推進に日頃よりご尽力いただいております、当協会はこれまで出前授業、商船見学会の開催、各種資料提供や教員向け研究会への参画を通じて連携を深めてまいりました。

<授業概要>

まず、村上教諭は児童とやり取りを交わしながら、ソマリア沖・アデン湾での海賊事案発生状況やスエズ運河を通航する利点(航海日数の短縮、燃料費等費用の削減等)を紹介しました。

次に、船会社・消費者・船員という3つの異なる視点からスエズ運河ルートを選択した理由について児童に考えてもらい、児童は、船会社・消費者視点では輸送費の削減や物価の低減に繋がるというメリットを答える一方、船員視点では、海賊発生の観点から、より安全であろう喜望峰ルートを通航したいのではないかと疑問を抱きました。これを踏まえ村上教諭は「人の命は大切！それなのにスエズ運河ルートを通るのは何故か」という問いを投げかけ、児童からは「海賊対策が実施されているから」「経費が節減されることで船員の給与アップに繋がるから」「実は怖いのを我慢し通航している」といった声が上がりました。



その後、村上教諭は「現場海域で自衛隊・海上保安庁による、海賊対処行動が展開されているから」という問いへの解とともに、各種映像資料等も活用しながら海賊対処行動の活動概要(ジブチ共和国での各種任務、駐留する各国軍との連携等)や、そこでの当協会の役割等を説明した他、海賊対処行動が奏功し海賊発生事案が激減、商船の安全な航行に繋がっていることを伝えました。

授業のまとめとして、四面環海の日本において、私たちの日々の暮らしは、物流を担う海運や安全運航を支援する自衛隊・海上保安庁等多くの「海族」が関わっていることを伝え、「私たちの当たり前は多くの人に支えられている」という気付きへと導きました。児童からは海族に対し「私たちの暮らしを支えてくれて、ありがとう」と感謝の声が聞かれました。児童たちは、ジブチの海賊対処行動の現場で任務にあたる自衛隊員・海上保安官へ感謝のメッセージを送る予定です。※※



終了後、友田副会長は、ジブチ共和国にある活動拠点を訪問した自身の経験にも触れながら、「世界を繋ぐ海とその架け橋となる商船、それを動かす船員や安全運航を支援する自衛隊や海上保安庁等、私たちの“当たり前”を多くの人が支えている事をこの授業を通じて認識してくれたら嬉しい」とコメントしました。

<授業後の協議会>

授業後、友田副会長は木村教授、村上教諭、尾道市教育委員会関係者や同校教員が参加する協議会に出席しました。

授業を傍聴した同校宇根本校長より、「日常を支える土台に焦点を当てる事で、社会科の奥深さを知る授業であった。また、実際に海運業界に携わる人の参観もあり、児童の心にも残るものになったのではないかと」の感想がありました。

また、友田副会長は、海運の役割の紹介にとどまらず、海運を支援する多くの関係者の協働へ児童からの感謝の意が導かれた事に感動した旨言及した他、「海運は、人命尊重と利益の追求、すなわち道義性と経済合理性を常に念頭に置きながら事業を進めており、児童が社会人になった後も自らに問いかけることの多い永遠の課題である。子どもの頃から授業を通じてそのようなことを考える機会を提供できたことは大変意義深い」と述べました。



最後に木村教授は“当たり前をどう教えていくか”という今回の授業テーマに触れたうえで、「海運をはじめとする物流は、私たちの当たり前を支えているが、その大切さを知るのは当たり前が崩れた時である。教科書は学習指導要領を基に製作されており、いわゆる当たりの事しか掲載されていない。それらをそのまま教えるだけでなく、逆転の発想を持ちながら授業を考えていく事が重要である」と総括しました。

当協会は今後とも海運をはじめとする海事教育が学校授業でより多く取り上げられるよう、各種活動を進めてまいります。なお、木村教授ならびに村上教諭は、4月18日(火)に開催される海事振興連盟の勉強会において海事教育に係る講演を予定しております。

※ :木村博一教授ならびに村上忠君教諭は、小学校社会科教育での海事研究、教材開発や授業における実践を通じ、人材育成に努め、広く日本の海事交通文化の発展に貢献した功績から、2021年に山縣勝見賞特別賞を受賞している。

※※ :これまでも村上教諭の授業では、海賊対処行動に従事する自衛隊・海上保安庁職員やコロナ禍のなか海上輸送に従事する船員に対し児童より感謝のメッセージを送るといった活動を通じて、謝意を伝えるとともに交流を図っている(別添および以下 URL をご参照下さい)。

<関連 URL:当協会 YouTube>

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLhosBKjGGXT1wBSUu6jrR8gQTYF-tHNGI>

<児童が海賊対処行動にあたる職員にあてたメッセージの一部>

自衛隊と海上保安官のみなさんへ
 私たちは、梅野先生といっしょに自衛隊
 と海上保安官のみなさんのお仕事
 を学びました。
 私たちがいつもつかっている石油を
 まもっていることを知りました。
 自衛隊と海上保安官のみなさんが
 石油をはこぶタンカーをまもっていること
 は私たちの生活をまもっていると思います。
 これから大変なこともあるとおもう
 けどがんばってください。

自衛隊・海上保安官の
 みなさまへ
 この前、私は、自衛隊などの
 仕事の授業を受けて、「私た
 ちの暮らしを一生けん命支えてく
 ださっているんだな」と強く思いました。
 石油をはこぶ船などを、海ぞく
 におそわれないようにいろいろな
 工夫がされていることを知りました。
 また、日本人はこぶ道も知ることがで
 きました。これからも、コロナにまけ
 ず、海を守りつづけてください。

<メッセージに対するお礼>

